

社会・文化・教育



キーワード：社会問題、犯罪・非行、安全・安心まちづくり

「社会問題」への向き合い方
～データを通して考える「わたしたち」の社会～

現代社会学部 現代社会学科 准教授
竹中 祐二 TAKENAKA Yuji

研究の内容

自殺対策や子どもの貧困など、幅広い領域での社会問題について研究活動に従事してまいりました。特に「地域」を基盤とする、「子ども・若者」を中心とする、「協働・連帯」を切り口としたテーマに主たる関心があります。

ここからは、最近の取り組みについてご説明いたします。まず、寝屋川市監察課による「犯罪認知件数減少に向けた施策立案事業」への協力を行っております。市民意識調査を行うほか、監視カメラ設置状況や駐輪場の防犯状況などについてのフィールドワークを実施し、施策立案に向けた提言を行っています。次に、「保護司みらい研究所」が主導する「保護司による処遇の分析と有用性」や「保護司の確保・育成と保護司会に期待される役割」についての研究プロジェクトに参画しております。ここではインタビュー調査と調査票調査を併用する実証研究に着手しています。さらに、非行経験に関する自己申告調査を世界各国の中学生に対して実施し、その結果を比較しようとする国際プロジェクトである「国際自己申告非行調査ISRD（International Self-Report Delinquency Study）」に携わり、これまでに国際会議での報告も経験しています。

産学連携・社会連携へのアピールポイント

重ねてのご説明になりますが、幅広い領域での社会問題について研究活動に従事してまいりました。また、社会福祉士・公認心理師・専門社会調査士・専門統計調査士の資格も有しております。これらを活かして、子ども・若者を中心とする社会問題全般や児童福祉を中心とする社会福祉全般の、様々なテーマに対して、様々な角度からのご協力が可能です。これまでも、自治体や学校での研修・講演もお引き受けしてきており、対応可能です。

研究者総覧（竹中 祐二）

URL：https://gyoseki.setsunan.ac.jp/html/200000681_ja.html

